

- 消防組織法第45条に基づき、総務大臣が、緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画（基本計画）を策定
- 基本計画に基づき、消防庁長官が緊急消防援助隊として隊（車両・ヘリ）を登録
- 消防組織法第49条に基づく緊急消防援助隊設備整備費補助金及び同法第50条に基づく無償使用制度を活用し、必要な車両を整備
- 第1期計画を平成16年に策定し、おおむね5年ごとに改定、第4期基本計画は2019年度から2023年度まで

## これまでの計画の経緯

| 基本計画           | 目標隊数   | 部隊編成の改定                       |
|----------------|--------|-------------------------------|
| 第1期（H16-20）    | 3,000隊 | 指揮隊の新設、特殊装備小隊の創設              |
| 第1期中改定(H18-20) | 4,000隊 | －                             |
| 第2期（H21-25）    | 4,500隊 | －                             |
| 第3期（H26-30）    | 6,000隊 | 統合機動部隊の創設、ドラゴンハイパーコマンドユニットの創設 |

※ 5,978隊（平成30年4月1日）

## 今後取り組むべき課題

- 1 甚大な被害が想定される  
南海トラフ地震等への対応力の強化
- 2 多発する大規模水害時における  
救助体制の強化
- 3 国際的なイベントが控える中、  
NBCテロ災害への迅速な対処

## 改定の主なポイント

### 登録目標隊数を増強

6,000隊(24,000人規模)⇒ 6,600隊(27,000人規模)

＜増隊の内訳＞

消火、救助(水害対応分を除く)、救急の主要3小隊

⇒400隊程度

水害に対応した救助小隊、特殊装備小隊(水陸両用車、重機等)

⇒60隊程度

後方支援小隊等

⇒140隊程度

### 増隊に伴う部隊の創設

- ① **土砂・風水害機動支援部隊**  
(50部隊程度の配備を計画)  
※ 1 部隊：6隊20人程度
- ② **NBC災害即応部隊**  
(50部隊程度の配備を計画)  
※ 1 部隊：5隊20人程度

# 土砂・風水害機動支援部隊の創設

## 多発する大規模な土砂・風水害



H27年関東・東北豪雨



H28年台風10号災害



H29年九州北部豪雨



H30年7月豪雨

土砂・風水害現場での救助活動に活用する特殊車両・資機材を計画的に配備し、被災地に機動的に投入できる体制の整備が重要

## 土砂・風水害機動支援部隊の基本的な編成

水陸両用車、重機など、土砂・風水害現場での救助活動に特化した特殊車両等により編成

### 部隊指揮隊(指揮車)

救助小隊(津波・大規模風水害対策車)

救助小隊(救助工作車)

特殊装備小隊(重機及び重機搬送車)

後方支援小隊(支援車)

後方支援小隊(燃料補給車)

特殊装備小隊(水陸両用車及び搬送車)  
※配備がある場合のみ

その他必要な車両(高機能救命ボート含む)



津波風水害対策車



重機



中型水陸両用車

(水陸両用車は、ブロック単位で配備)



高機能救命ボート

状況により編成

各都道府県に配置  
計50部隊程度の配備を計画

- ・必要な特殊車両は無償使用制度により計画的に整備
- ・被災地では他の都道府県大隊等と連携して活動する

# NBC災害即応部隊の創設

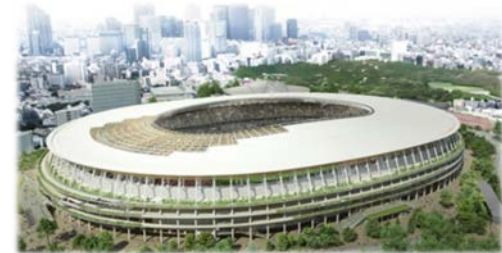
## テロ災害の脅威



G20大阪サミット会場



ラグビーワールドカップ会場



東京オリンピック・パラリンピック会場

大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成/JSC提供(注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約10年の姿を想定しております。

国際的イベントを控える中、テロ災害への対処が必要  
NBCテロ災害では、自らを防護しつつ、救助・除染・搬送を迅速に行うことが不可欠  
特殊な装備を有した部隊を設け、テロ発生時に被災地へ迅速に投入する体制の整備が重要

## NBC災害即応部隊の基本的な編成

NBC災害に対応する特殊資機材を積載した車両により編成  
(既に都道府県大隊に登録されている隊を再編)

### 指揮隊 (指揮車)

### 特殊災害小隊 (検知器等積載車)



化学剤検知器



検知器等積載車

### 特殊災害小隊 (除染テント等積載車)



大型除染テント



除染テント等積載車

### その他の小隊 (水槽車等)

全国の大規模消防本部に配置  
計50部隊程度の配備を計画

NBC災害時の運用計画に基づき、  
消防庁長官から直接、市長等に出動  
を指示し、30分以内に迅速出動



# 訓練の実施その他の改定

## 実践的な訓練の実施

大規模災害時の対応力・連携力を強化するため、実践的な訓練を継続的に実施

毎年度：全国6ブロックで合同訓練

2021年度：全国合同訓練

(最大規模、2015年参加実績 約2,300人)



2015年全国合同訓練

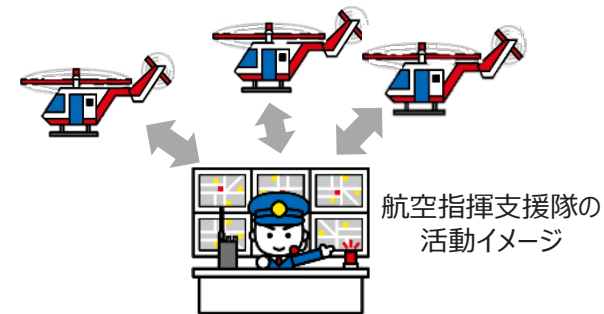


2018年地域ブロック合同訓練

## 航空関連の隊の変更

効果的な航空活動を実施するため、次のとおり変更

- ・航空小隊(ヘリ)を都道府県大隊(陸上隊)から切り離して、「航空部隊」として位置付ける。
- ・多数の航空小隊の活動を管理する航空指揮支援隊を創設する。
- ・航空活動の拠点(ヘリポート等)で隊員への後方支援（給食、宿営などの補給）が必要な場合に後方支援活動を行う航空後方支援小隊を創設する。



北海道胆振東部地震での航空隊の集結状況

# 緊急消防援助隊ロゴマークの作成

緊急消防援助隊の各隊員がひとつの部隊として結束力を強めることや、緊急消防援助隊の活動の広報を目的として、**ロゴマークを作成しました**（複数のデザインの中から、緊急消防援助隊の登録消防本部及び登録都道府県航空消防隊からの投票により決定）

## デザインイメージ

- ① 救助活動で用いる基本ツールのカラビナがモチーフ
- ② 多くの消防本部の隊員同士が、緊急消防援助隊として結束することを表現
- ③ 困難な場面にも立ち向かう力強さを表現
- ④ 消防のカラーである赤を使用

タイプ1  
マークのみ



タイプ2  
マークと文字



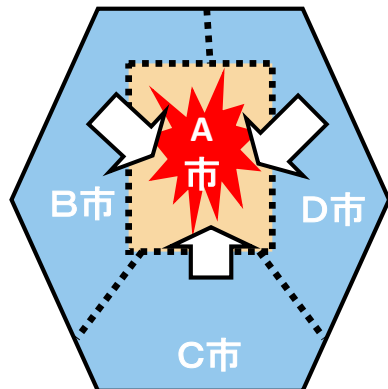
# 緊急消防援助隊

National Fire Service Team for Disaster Response

## 通常の火災・事故・災害の場合

### ○市町村レベルの対応

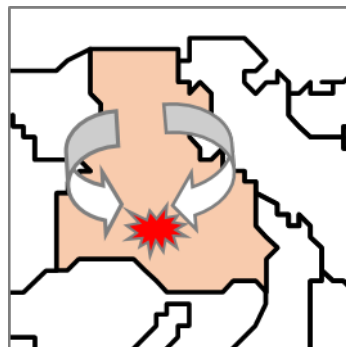
- ・市町村消防責任の原則  
(消防組織法第6条)
- ・隣接市町村による相互応援  
(消防組織法第39条)



## 大規模な火災・事故・災害の場合

### ○都道府県レベルの対応

- ・都道府県内の相互応援協定による応援  
(消防組織法第39条)
- ・都道府県知事による市町村長等に対する災害防御措置に関する指示  
(消防組織法第43条)



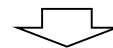
## より大規模な火災・事故・災害の場合

### ○国レベルの対応 = 緊急消防援助隊

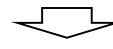
〔阪神・淡路大震災を教訓に平成7年に創設、平成15年に法制化〕

- ・消防庁長官の出動指示・求めによる全国規模の応援 (消防組織法第44条)

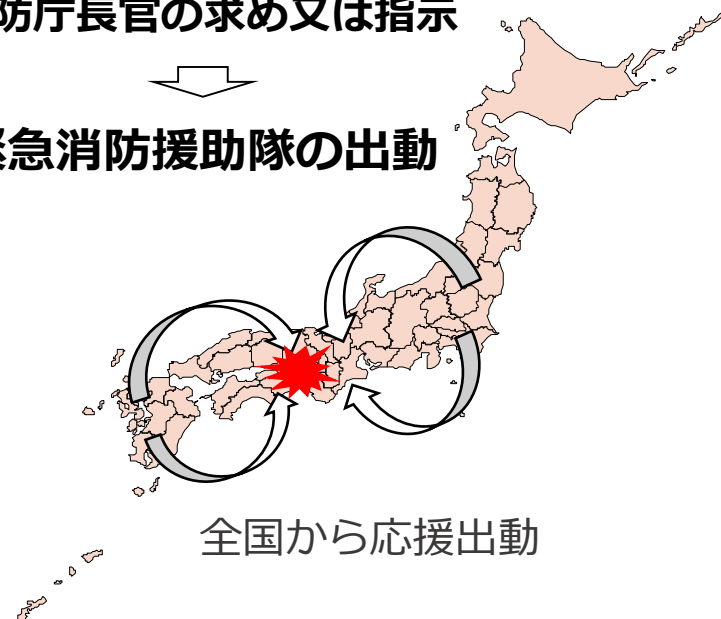
被災県知事からの応援要請



消防庁長官の求め又は指示



緊急消防援助隊の出動



全国から応援出動

## 緊急消防援助隊の登録隊

|      | 隊種別           | 隊数    | 任 務   |
|------|---------------|-------|---|
| 一般部隊 | 統括指揮支援隊、指揮支援隊 | 57    | 迅速に出動し、被災状況の把握、消防庁との連絡調整、現地消防機関等の指揮支援を行う。   |
|      | 指揮隊           | 144   | 都道府県単位の集合体である大隊を統括し、その活動の指揮を行う。             |
|      | 消火小隊          | 2,260 | 大規模火災発生時の延焼防止等の消火活動を行う。                     |
|      | 救助小隊          | 487   | 高度救助用資器材を備え、要救助者の検索、救助活動を行う。                |
|      | 救急小隊          | 1,361 | 高度救命用資器材を備え、救急活動を行う。                        |
|      | 後方支援小隊        | 853   | 各隊に対して、テント・給食設備等により必要な補給活動等を行う。             |
|      | 通信支援小隊        | 41    | 衛星通信設備等を備えた車両等により通信の確保等の活動を行う。              |
|      | 特殊災害小隊        | 340   | 毒劇物等災害、大規模危険物災害など特殊な災害に対応するための消防活動を行う。      |
|      | 特殊装備小隊        | 443   | 遠距離送水設備、はしご、重機、水陸両用車、電源照明等特殊な装備を用いて消防活動を行う。 |
|      | 水上小隊          | 20    | 消防艇を用いて消防活動を行う。                             |
|      | 航空小隊          | 75    | ヘリコプターを用いて消防活動を行う。                          |

**合計（重複除く） 5,978** （2018.4時点）

|      |  |    |   |
|------|--|----|---|
| 特別部隊 | エネルギー・産業基盤災害即応部隊<br>（ドラゴンハイパーコマンドユニット） | 12 | 石油コンビナート等の特殊災害に対し、高度かつ専門的な消防活動を迅速かつ的確に行う。（指揮隊、大容量送水ポンプ車、大型放水砲搭載ホース延長車、大型化学車、高所放水車、泡原液搬送車等により構成） |
|      | 統合機動部隊                                 | 47 | 迅速に先遣出動し、情報収集を行うとともに、緊急の消防活動を行う。（指揮隊、消火小隊3隊、救助小隊3隊、救急小隊3隊、後方支援小隊1隊等により構成）                       |

※特別部隊を構成する隊は、一般部隊の小隊が兼ねている